



かわい



<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawai/> (HP 随時更新中!)

挑戦できること

校長 窪田 剛久

昨年度に比べ今年の冬は厳しく、東北や北海道などでは豪雪に見舞われました。自然の猛威に対して私たちの力がとても小さく、できることも限られていること、この2年間で多くの方が痛いほど実感させられたのではないかと思います。本当に心が折れそうになる中、夏に引き続き、冬季オリンピックの選手の方々が大きな勇気と感動、そして前向きな気持ちを与えてくれました。

今回のオリンピックで、特に注目を集めたのは男子フィギュアスケート、羽生結弦選手でした。羽生選手の偉大な功績は皆様もよくご存じのことだと思いますが、今ではたくさんの選手が導入している4回転ループジャンプを、公式戦で初めて成功させたのは彼でした。それ以外にも多くの戦績を残し、2019-20シーズンの終了までに世界記録を通算19回更新しています。そして冬季オリンピックです。2014年ソチオリンピック、2018年平昌オリンピックと2大会連続金メダルを受賞し、今回3大会連続金メダルの期待をかけられた羽生選手を感じる重圧は、常人には計り知れないものだったのではないかと思います。にもかかわらず、彼はまだ誰も挑戦したことのない4回転アクセルというジャンプに挑んだのです。結果として着氷がうまくはいきませんでした。4回転アクセルというジャンプが今回のオリンピックで初めて正式な技として認定されました。また一つ、羽生選手が歴史をつくったこととなります。



羽生選手はその後の取材で次のようなことを言っています。

「大人になって、人生って報われることが全てじゃないんだなと。ただ、報われなかった今は、報われなかった今で幸せだなと。不条理なことはたくさんありますけど、少しでも前を向いて歩いていけるように、がんばっていきたくと思います。」

オリンピック選手として素晴らしい実績を築くと、その実績を守ろうとする心理が働きそうなどころです。しかし羽生選手は最後まで「挑戦者」としての自分を貫いたように見えます。現状に満足せず更なる高みを目指す、そういった生き方が「報われなかった今で幸せだな」という、一見逆のことを言っているかのようなコメントに繋がっているように思います。

全世界は今、パンデミックという最大の危機に対峙しています。日本では秋に一見収束に向かうかに見えた感染が、その後爆発的に拡大しました。それに伴い様々な制限が強化され、辛く報われない思いを抱いた方もたくさんいらっしゃると思います。学校現場でもそうでした。今後現状がどのように推移していくかは分かりませんが、それでも羽生選手のように「挑戦」する気持ちを持ち続けていれば、いずれ「幸せ」を実感することができるかもしれません。むしろ「挑戦」すること、「挑戦」できることに「幸せ」を見出さなければならぬとまで思います。「挑戦」できない人生に「成長」は望めないからです。

またスノーボード女子ビッグエアでは岩淵麗楽選手が、女子の試合では誰も見せたことのないトリプルアンダーフリップに「挑戦」しました。あと少しのところでは着地は決まりませんでした。その果敢な「挑戦」に、それまでライバルだった選手たちが駆け寄り、熱いハグで称賛しました。一人の偉大な「挑戦」が世界を一つにした瞬間を、垣間見た気がしました。「挑戦」には人を大きく感動させ、気持ちを一つにする、そういった力や価値も内包されていると実感したひと時でした。

もうすぐ学年が一つ上がり、6年生は卒業を迎えます。川井小学校で学んだ子ども達には、ぜひ「挑戦」することを通して感動し、わくわくし、生き生きと成長して行ってほしいと思います。そしていつかは人と人を結びつけ、安心して過ごせる世界を築く人になってほしいと願っています。新しい年度を迎え気持ちを新たにしたとき、今年は何に「挑戦」しようかな、と考えられる子ども達を育てよう、制限のある中ではありますが、職員一同工夫して教育活動を推進してまいります。今後ともご理解とご協力、よろしくお願いたします。